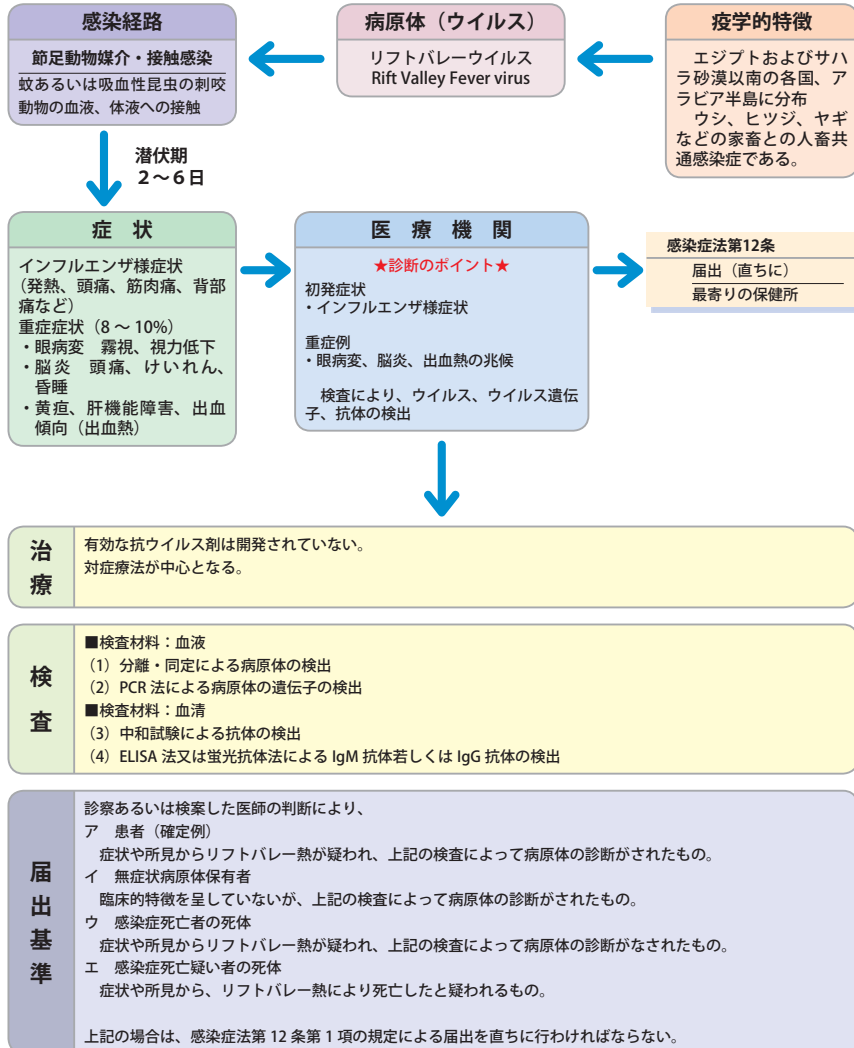


## (39) リフトバレー熱 ………四類感染症

## Rift Valley fever



## 参考図書

- (1) CDC. Rift Valley Fever. <https://www.cdc.gov/vhf/rvf/index.html>
- (2) 池上徹郎、牧野伸治. リフトバレー熱ウイルス. ウイルス 54, 229-236, 2004.
- (3) Lani R et al. Tick-borne viruses: a review from the perspective of therapeutic approaches. Ticks Tick Borne Dis. 2014, 5(5):457-65
- (4) 厚生労働省検疫所ホームページ <http://www.forth.go.jp/>

## 発生状況

1930年ケニアのリフトバレーで初めてウイルスが分離同定されたことに因んで命名された。現在、ウイルスはエジプトおよびサハラ砂漠以南の各国、アラビア半島に分布。

## 臨床症状

発熱、頭痛、筋肉痛、背部痛等のインフルエンザ様症状を呈し、通常は2～7日で回復する。0.5～1%の患者により重篤な症状が見られ、発症から1～3週間後に眼の症状(霧視、視力低下)が出現したり、脳炎症状(<1%)が出現することがある。眼病変をきたした患者の50%が失明にいたる。致死率は1%未満である。出血症状は肝機能障害に由来し、黄疸、出血傾向(吐血、黒色便、歯肉出血など)が見られる。

## 検査所見

検体：血液  
 (1) 分離・同定による病原体の検出  
 (2) PCR法による病原体の遺伝子の検出  
 検体：血清  
 (1) 中和試験による抗体の検出  
 (2) ELISA法又は蛍光抗体法によるIgM抗体若しくはIgG抗体の検出

## 病原体

ブニヤウイルス科フレボウイルス属のリフトバレー熱ウイルス (Rift Valley Fever virus)

## 感染経路

自然界では、主にヤブカ属の蚊と牛や羊の間で感染環が維持されている。ヒトへの感染は、主に蚊あるいは他の吸血昆虫の刺咬によるが、ウシ、ヒツジ、ヤギなどの家畜の血液や体液による接触感染もありうる。

## 潜伏期

2～6日

## 行政対応

診断した医師は、直ちに最寄りの保健所に届け出る。

## 拡大防止

蚊の駆除。感染発生地域に立ち入る場合は虫よけを使用する。

## 治療方針

有効な抗ウイルス剤は開発されていないので、対症療法が中心となる。